



The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

令和4年度軽種馬経営高度化指導研修事業

軽種馬経営把握と青色申告決算書の活用

令和5年3月

公益社団法人日本軽種馬協会

はしがき

本協会では、地方競馬全国協会の補助を受け、より強い馬づくりに取り組む担い手経営のニーズに対応しうる指導者を育成し、関係機関が一体となって軽種馬経営に対する指導を強化することにより、軽種馬経営の高度化と安定を図り、もって競馬の健全な発展に資することを目的とした軽種馬経営高度化指導研修事業を公益社団法人中央畜産会へ委託して実施している。

その一環から軽種馬営農指導の参考に資する資料として、本会が毎年度報告している「軽種馬生産費等調査報告書」の調査対象経営に関する経営収支等を「皆様の経営概要」に取り纏めている。

この「皆様の経営概要」は、調査対象経営に配付しているものであるが、主要内容は青色申告決算書に基づくものであり、調査対象経営以外の軽種馬経営に対する営農指導にも活用できる様式、取りまとめ手法である。

そこで、本書で「皆様の経営概要」を紹介するとともに、青色申告決算書との関係について解説することとした。さらに、軽種馬生産費等調査における生産費の考え方とその活用方法、営農指導員が軽種馬経営者の経営状況を把握する際の留意点について解説することとした。

営農指導では、既存の資料を利用していかに効率的に指導を行うかということが大切である。また、他経営との比較、複数年に亘って経営がどのように推移しているかを時系列でみることも重要な経営分析の手法である。

本書を、軽種馬経営に対する営農指導の参考資料としていただきたい。

末筆ながら本書作成にご協力いただいた軽種馬経営高度化指導研修事業営農指導検討委員に厚く御礼申し上げる次第である。

令和5年3月

公益社団法人 日本軽種馬協会

目 次

I. 青色申告決算書と「皆様の経営概要」	1
酪農学園大学農食環境学群循環農学類 教授 小糸健太郎	
1. はじめに	1
2. 「皆様の経営概要」について	1
3. 青色申告決算書から「皆様の経営概要」の数値を求める方法	9
4. 経営管理における「皆様の経営概要」の活用	16
5. 生産費調査の考え方とその活用	23
II. 営農指導における経営把握の留意点	26
総括畜産コンサルタント 原田 要	
III. 資料編	
「皆様の経営概要」サンプル	33
「所得税青色申告決算書」（軽種馬生産者用）様式（例）	39
IV. 令和4年度軽種馬経営高度化指導研修事業 営農指導検討委員名簿	45

I. 青色申告決算書と「皆様の経営概要」

酪農学園大学農食環境学群循環農学類 教授 小糸健太郎

1. はじめに

現在、農業の営農指導者や生産者の身近な経営資料として青色申告決算書がある。軽種馬営農指導者のみなさんが、経営改善のためにこの身近なデータを活用できるように、本稿では、以下の点について解説する。

まず、① 青色申告決算書を活用した経営把握の例として、軽種馬生産地調査に協力いただいている生産者に配付している「皆様の経営概要」の紹介をする。

つぎに、② 「皆様の経営概要」が配付されていない生産者が簡単に「皆様の経営概要」と同じような数値を見ることができるよう、「皆様の経営概要」と青色申告決算書との関係についての解説をする。

そして、③ 「皆様の経営概要」の活用方法についての解説をする。

最後に、生産効率を考える場合において生産費調査の考え方およびその数値は経営管理において参考となると考えられるため、④ 毎年報告されている日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」に掲載されている生産費調査の考え方とその活用方法について解説する。

2. 「皆様の経営概要」について

軽種馬生産地調査は、軽種馬生産の実態を把握して、軽種馬の生産振興と軽種馬生産経営に関する基礎資料を得ることを目的とされて、記帳データと聞き取り調査によって、軽種馬の生産費統計の作成を行い、基礎資料として利用されている。

こうした中、軽種馬生産地調査に協力いただいている生産者に、少しでも経営に役立つ情報を還元することを目的に、青色申告決算書からのデータを中心として「皆様の経営概要」を作成し配付している。資料編にサンプルを示しているが、内容としては以下の通りである。

① 経営規模・成績の概要把握

経営概要として、表1-1、表1-2にあるように、労働力、繁殖牝馬飼養頭数、収支の概要を表で示すとともに、調査対象生産者の平均値を示している。

ただし、年度によって大きく変化することが想定されるため、3ヵ年平均値を示し、その値との比較としている。

表1-1 「皆様の経営概要」

	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
家族労働(人)	3	3	3	3.0	2.8
雇用労働(人)	1	2		1.0	2.9
常雇用(人)			1	0.3	1.0
臨時雇用(人)	1	2	1	1.3	2.0
繁殖牝馬平均飼養頭数	3	5	4	4.0	11.5
自己有(頭)	3	5	3	3.7	6.1
仔分け(頭)				0.0	1.0
預託(頭)			1	0.3	4.3

表1-2 「皆様の経営概要」

4 収支概要	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
利益	-2,205	-701	5,470	855	16,924
収入合計	6,865	7,927	13,286	9,359	50,417
販売金額	3,540	3,955	6,732	4,742	27,881
産駒(自己有)	3,240	3,955	6,732	4,642	26,333
産駒(仔分け)				0	1,544
繁殖牝馬	300			100	5
受託料			1,240	413	12,817
支出合計	9,070	8,627	7,816	8,504	33,493
種付料	550	891	1,200	880	5,675
飼料費	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269
人件費	50	33	49	44	2,125
常雇				0	1,690
臨時雇	50	33	49	44	258
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467
馬	672	92	100	288	891
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576

さらに、これらの数値を生産者が読み取りやすいように、図1-1～図1-5

に示されるように、重要な数値をグラフ化している。

経営規模

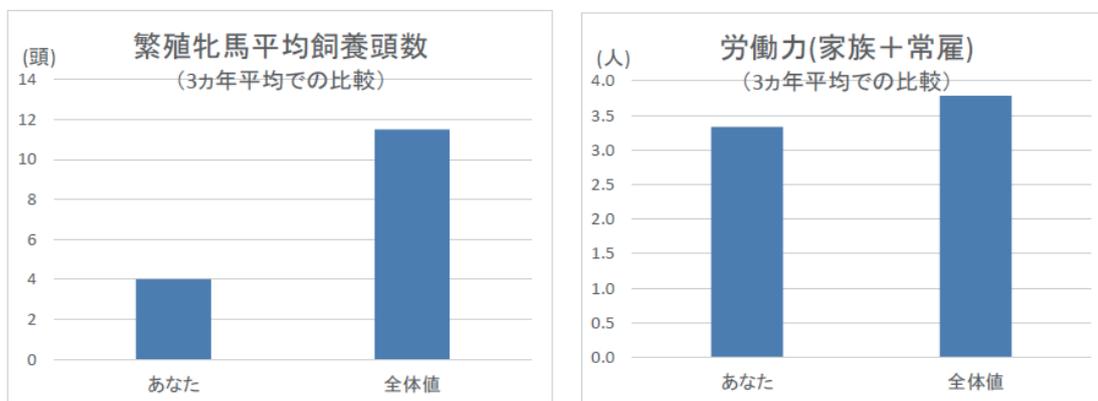


図1-1 「皆様の経営概要」

第一に、図1-1のとおり調査対象生産者全体と規模の比較ができるように、繁殖牝馬平均飼養頭数、労働力を棒グラフで示している。平均値と比較して、頭数規模、労働力の位置付けを確認することができる。

生産率

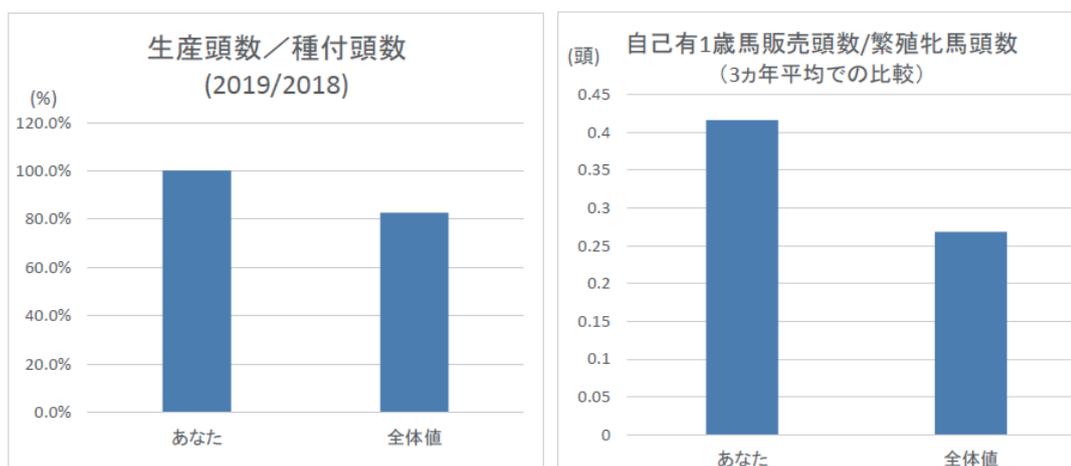


図1-2 「皆様の経営概要」

第二に、図1-2のとおり繁殖状況を調査対象生産者の平均値と比較できるように、種付頭数に対する生産（分娩）頭数、繁殖牝馬に対する自己有1歳馬の販売頭数を棒グラフで示している。

収益性

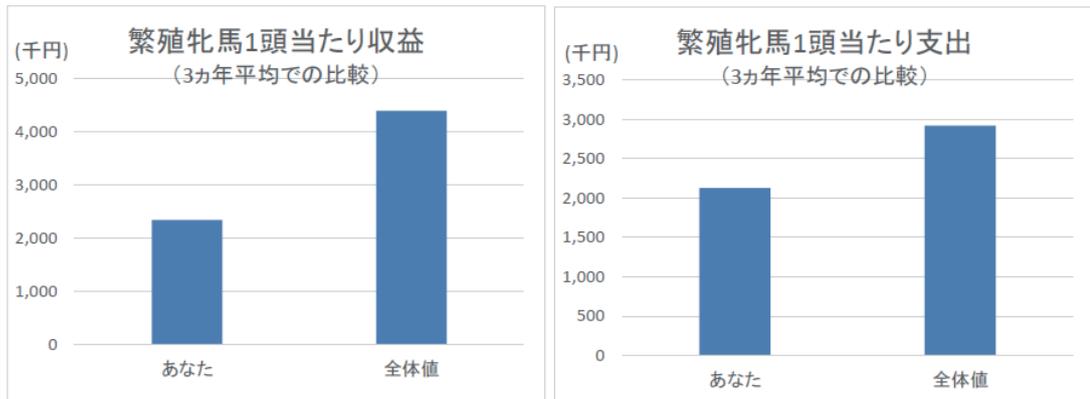


図1-3 「皆様の経営概要」

第三に、図1-3のとおり収益および支出を調査対象生産者の平均値と比較するために、繁殖牝馬1頭当たりの収入および支出を棒グラフで示している。

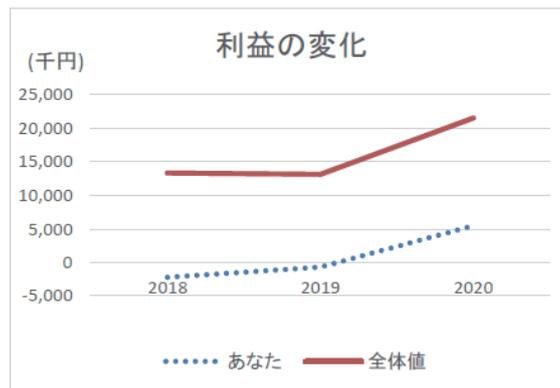


図1-4 「皆様の経営概要」

第四に、図1-4のとおり3年間の利益の変化について、調査対象生産者の平均値と比較できるように、折れ線グラフで示している。

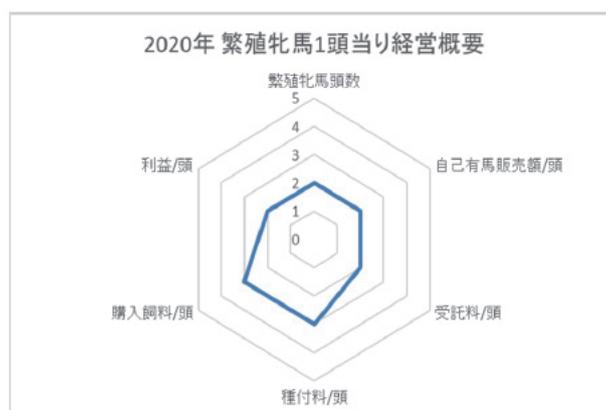


図1-5 「皆様の経営概要」

最後に、図1-5のとおり繁殖牝馬1頭当たりの経営概要を調査対象生産者の平均値と比較できるように、こちらは、偏差値に合わせた5段階評価で示している。従って、3が平均に近い値となっており、収入に関する部分は、5に近いほど平均値よりも多いことを示し、費用に関する部分は、5に近いほど平均値よりも少ないことを示している。

② 収入内訳の把握

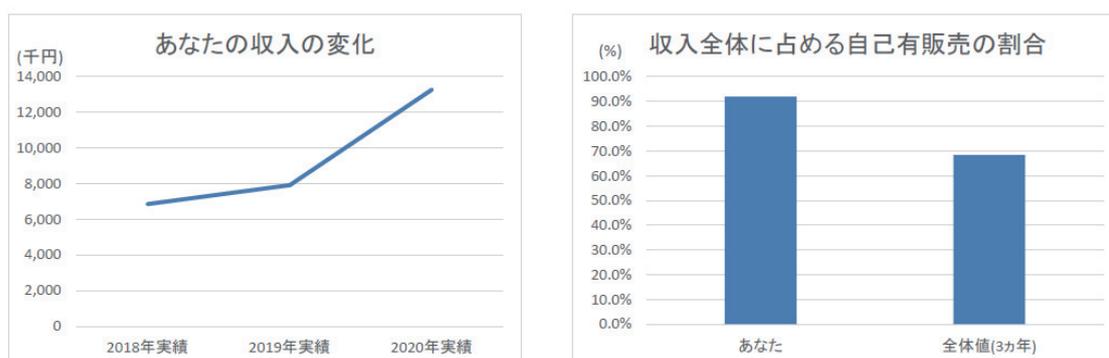


図2-1 「皆様の経営概要」

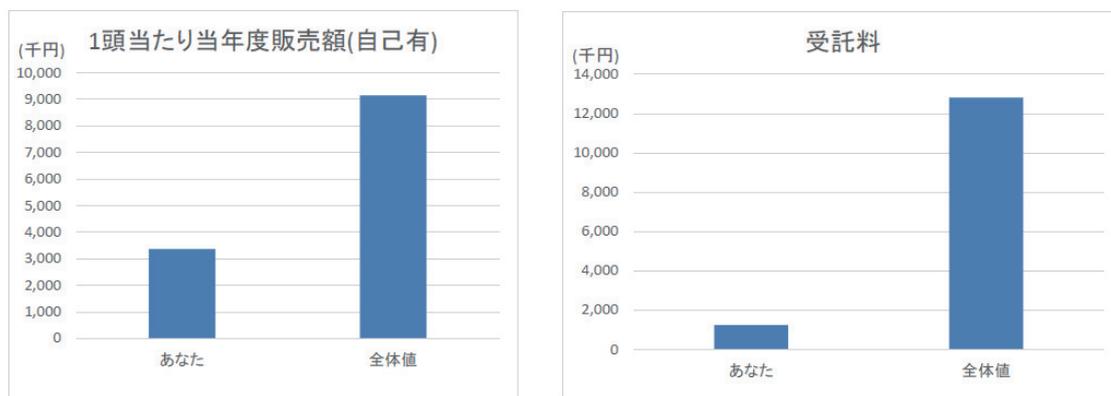


図2-2 「皆様の経営概要」

経営収支のうち収入の内訳について、図2-1、図2-2にあるように表で示しているとともに、3カ年平均、調査対象生産者の平均値を示している。経営概要と同様に、生産者が数値を読み取りやすいように、重要な数値をグラフ化している。

第一に、3カ年の収入の変化を折れ線グラフで示している。

第二に、収入の構造を比較するために、収入全体に占める自己有馬の販売額の割合、自己有馬1頭当たりの当年の販売額、および受託料を調査対象生産者の平均値と比較して示している。

③ 支出内訳の把握

表2 「皆様の経営概要」

物 財 費	牧場当たり				全体値(3カ年)
	2018年実績	2019年実績	2020年実績	3カ年平均	
種付料	550	891	1,200	880	5,675
	7.1%	11.1%	14.8%	10.4%	20.4%
購入飼料	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269
	13.7%	13.2%	14.3%	12.9%	11.8%
家畜医療費	274	254	185	238	1,261
	3.5%	3.2%	2.3%	2.8%	4.5%
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467
	31.9%	21.3%	16.1%	21.5%	12.5%
馬	672	92	100	288	891
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576
租税公課	162	128	140	143	1,733
	2.1%	1.6%	1.7%	1.7%	6.2%
共済・保険	462	487	430	460	947
	5.9%	6.1%	5.3%	5.4%	3.4%
その他経費	723	844	967	845	1,938
	9.3%	10.5%	11.9%	9.9%	7.0%
	7,773	8,039	8,107	7,973	25,633

経営収支のうち支出の内訳について、図4のように示しているとともに、3カ年平均、調査対象生産者の平均値を示している。

費用は項目数が多いため、ここでは、生産者が数値を読み取りやすいように、とりわけ、物財費は、種付料、購入飼料費、家畜医療費、減価償却費、租税公課、共済・保険費に絞って示し、その他の物財費を「その他経費」としており、これらの変化、平均値の比較を容易にするように工夫されている。

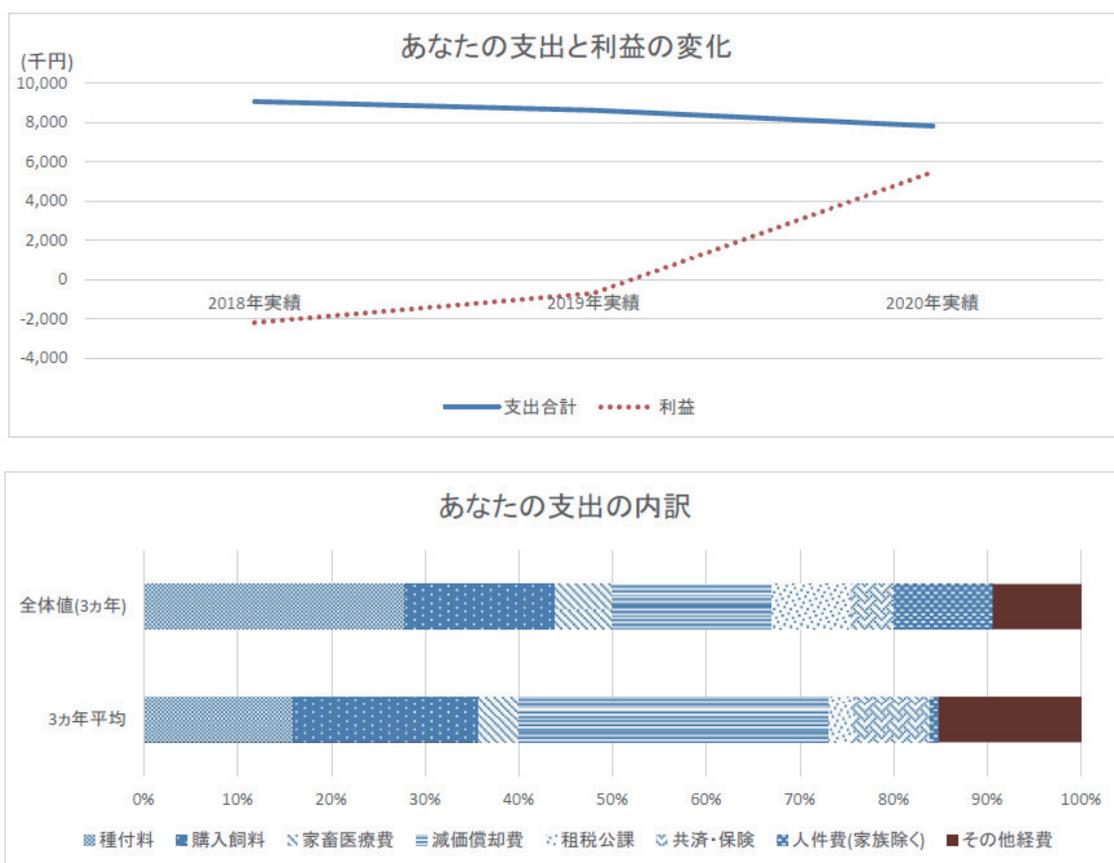


図3 「皆様の経営概要」

また、収支の変化として、3年間の支出の変化を利益の変化と合わせてみるができるように、折れ線グラフ（図3）で示している。

さらに、自分の経営と調査対象生産者の平均値の支出構造を比較し、生産者の支出状況の特徴を捉えることができるように、支出の内訳を帯グラフで示し

ている。

以上の内容で、ア．自分の経営が調査対象生産者の平均値と比較して、どのような特徴があるのかを捉え、イ．自分の経営がどのように変化しているのかを、簡単に見ることができるように工夫しており、できるだけ経営改善のために活用できるように工夫して数値を示している。

3. 青色申告決算書から「皆様の経営概要」の数値を求める方法

前節での「皆様の経営概要」を配付されていない生産者も、ほぼ同様の資料を作成することは可能である。ここでは、青色申告決算書から「皆様の経営概要」の数値の求め方について解説する。手順は以下の通りである。

① 青色申告決算書を用意する。

青色申告決算書（農業所得用）

科目		金額	科目	金額	科目	金額	
販売金額	①	13,286,000	共済掛金	430,000	差引金額 (⑦-⑭)	⑮	6,670,000
家事消費	金額 ②	0	家畜医療費	185,000	種		
事業消費			雇人費	49,000	引		
雑収入	③	1,200,000	減価償却費	1,307,000	戻		
小計 (①+②+③)	④	14,486,000	利子割引料	12,000	当		
農産物の棚卸高	期首 ⑤	0	地代・借地料	51,000	額		
	期末 ⑥	0	福利厚生費	0	・		
計 (④-⑤+⑥)	⑦	14,486,000	(略)	0	線		
租税公課	⑧	140,000	小計	⑩	準		
種付料	⑨	1,200,000	農産物以外の棚卸	期首 ⑫	入		
飼料費	⑩	1,162,000		期末 ⑬	額		
(略)	⑪			計 (⑩+⑫-⑬)	金		
(略)					等		
					所得金額		
					青色申告特別控除前の所得金額		
					青色申告特別控除額		
					所得金額		

図4 青色申告決算書（農業所得用）の例

まず、青色申告決算書（農業所得用）を準備する。ここでは、図4に示されるように、(A)の欄にある「収入金額」と(B)の欄にある「経費」に注目する。

② 収入の内訳を整理する。

「皆様の経営概要」の収入は、変動が生じる生産者賞を含めない金額としている。従って、同様の表を作成するためには、青色申告決算書の(A)「収入金額」のうち、生産者賞の収入金額を除くことになる。収入金額の部分は、別途付随している「収入の内訳」を見て、記入することになる。

表1は、「皆様の経営概要」の収入の欄である。収入の内訳から、販売金額の欄は、産駒（自己有馬）、産駒（仔分）、繁殖牝馬、受託料、その他収入（牧草・

たい肥・補助金他)に仕分ける。ただし、その他収入に雑収入の中にある生産者賞を含まないこととする。また、青色申告決算書(農業所得用)の(A)収入の欄の農産物の棚卸を記載する。

表3 「皆様の経営概要」の収入の欄(数値欄は空白)

1 収入

上段(千円)
下段(小計①に対する割合%)

		牧場当たり				全体値		
		2018年実績	2019年実績	2020年実績	3カ年平均			
収 入	販売金額①							
			%	%	%		%	
		産駒(自己有)						
				%	%	%		%
		うち牡	頭	頭	頭	頭	頭	
		うち牝	頭	頭	頭	頭	頭	
	産駒(仔分)							
		%	%	%				
	繁殖牝馬							
		%	%	%				
受託料								
	%	%	%					
その他収入(牧草・たい肥・補助金他)③								
生産者賞を含まず	%	%	%					
小計①								
農産物の棚卸	期首②							
	期末③							
収入合計(①-②+③) (下段 前年比%)								
			%	%				

③ 支出の内訳を整理する。

支出については、青色申告決算書の(B)「経費」の費目だけで記入できる。

表4は、「皆様の経営概要」の支出の欄である。

表4 「皆様の経営概要」の支出の欄（数値欄は空白）

2 支出

（千円）

		牧場当たり				全体値(3ヵ年)
		2018年実績	2019年実績	2020年実績	3ヵ年平均	
支出	物 財 費					
	種付料					
	購入飼料					
	家畜医療費					
	減価償却費					
	馬					
	その他					
	租税公課					
	共済・保険					
	その他経費					
	小計①					
	労 働 費					
	人件費					
	常雇入料					
	臨時雇入料					
	福利厚生費					
	小計②					
地代・賃借料・利子・割引料						
小計③						
農産物以外の棚卸	期首⑤					
	期末⑥					
支出合計						
利益						

「種付料」、「購入飼料」、「家畜医療費」、「減価償却費」、「租税公課」、「共済・保険」を記載し、その他の物財費は、「その他経費」に記載する。つぎに、「労

働費」、「地代・借地料・利子・割引料」、「農産物以外の棚卸」を記載し、それ以外を「その他」とする。

④ 経営概要を整理する。

経営概要については、馬の飼養動態表や土地の保有・利用状況が分かる資料、聞き取り等で記載する。表5は、「皆様の経営概要」の経営概要の欄である。これに記載すると、ほぼ「皆様の経営概要」と同じグラフも作成することができる（偏差値で示している図を除く）。

⑤ 比較対象となる調査対象生産者の平均値

調査対象生産者の平均値と比較をしたい場合、収入と支出については、日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」の「軽種馬飼養経営の収支状況」にある表を利用できる。例えば、令和3年度版（令和2年度実績）の「軽種馬生産費等調査報告書」であれば、P31にある経営収支（調査対象経営別収支）の全体平均である。

ただし、この表では、「収入」に「生産者賞」が含まれていることから、その額を除く必要がある。また、表には、繁殖牝馬平均飼養頭数が表記されていることから、繁殖牝馬平均飼養頭数1頭当たりの数値と収入および支出を比較することができる。

表5 「皆様の経営概要」の経営概要の欄（数値欄は空白）

経営名		経営開始年	
住所			

経営概要					
経営形態					
兼業業種					
軽種馬部門					
労働力員数	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
家族労働(人)					
雇用労働(人)					
常雇用(人)					
臨時雇用(人)					
繁殖牝馬平均飼養頭数					
自己有(頭)					
仔分け(頭)					
預託(頭)					
	計	自己有	仔分け	預託	全体値(当概年)
種付頭数(前々年、頭)					
生産頭数(前年、頭)					
	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
販売頭数(総数)					
自己有2歳馬(頭)					
自己有1歳馬(頭)					
自己有当歳馬(頭)					
仔分(頭)					
繁殖牝馬(頭)					
飼料生産実面積(ha)					
自己有地(ha)					
採草地(ha)					
放牧地(ha)					
借地(ha)					
採草地(ha)					
放牧地(ha)					

参考までに、表6は、日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」の繁殖牝馬平均飼養頭数1頭当たりの収入および支出である。

表6（1） 繁殖牝馬1頭当たりの収入

収入の部	(千円)					
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
販売金額	1,680	2,215	2,504	2,313	2,234	2,863
受託料	933	924	1,019	1,088	1,077	1,248
牧草販売	100	203	78	186	149	79
厩肥販売金額	0	1	0	0	0	0
生産者賞	188	268	341	321	281	230
その他収入	279	438	411	391	333	654
固定資産処分益	0	0	0	0	1	0
農産物の棚卸	9	-2	4	3	-0	-0
計	3,188	4,047	4,357	4,302	4,073	5,073

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」各年より作成

表6 (2) 繁殖牝馬1頭当たりの支出

支出の部	(千円)					
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
種付料	569	493	546	648	467	433
飼料費	429	426	406	438	435	453
敷料費	16	23	41	31	22	22
肥料費	38	48	56	63	40	43
放牧管理費	27	31	55	44	42	145
種苗費	4	10	18	1	10	2
農薬等	30	40	37	37	17	35
動力光熱費	90	86	100	108	125	82
家畜医療費	117	119	120	111	122	108
装蹄費	6	7	6	19	16	15
租税公課	91	101	120	125	129	206
減価償却費	513	496	515	470	404	479
修繕費	119	130	145	177	126	179
諸材料費	31	43	44	45	33	36
農具等	18	25	18	5	15	5
預託料	121	111	90	92	72	101
人件費	138	155	200	209	198	165
農産物以外の棚卸	-211	56	17	-117	25	68
その他経費	235	257	235	216	262	308
共済掛金・保険料	119	121	111	143	126	123
負担金・会費等	85	74	75	75	81	71
利子割引料	40	31	28	21	16	23
地代・賃借料	139	174	159	151	136	158
固定資産処分損	1	24	1	7	0	18
計	2,766	3,082	3,141	3,121	2,920	3,279
利益	423	965	1,216	1,181	1,153	1,794

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」各年より作成

4. 経営管理における「皆様の経営概要」の活用

日本軽種馬協会「軽種馬経営財務管理指導教本」(2008)には、軽種馬経営は、不安定性・変動性・不周期性を持つという特徴があるとし、その変動が大きいという特徴から、経営管理・分析のポイントは、変動を軽減し、より客観的に示す方法が求められるとしている。そのため、単年でなく複数年平均による検討視点、他の軽種馬経営との比較も必要であるとしている。このような視点から、経営分析はもちろんのこと、各経営の変化を把握することも肝要であろう。経営分析の詳細な方法については、「軽種馬経営財務管理指導教本」(2008)に委ねるとし、「皆様の経営概要」では、① 経営の変化を把握することが容易にできる、② 他の軽種馬経営との比較が容易にできる、③ 過去の「皆様の経営概要」を並べることで長期的な変化を見ることができるといった利点があることから、これらについて解説する。

① 3年間の経営の変化を把握する

「皆様の経営概要」は、3年間ではあるが、経営の変化を見ることができるといえる。その構成は、ア. 全体の把握として、収入・支出・利益が増加しているのか、その変化を見ることができるといえる。次に、その変化の要因をつかむために、イ. 収入の構成として、産駒の販売金額・受託料収入・農産物収入の変化、ウ. 支出の構成の変化として、種付料、購入飼料、家畜医療費などの変化を確認することができる。利益は、収入と支出の差であることから、当然、収入が減少したとしても、支出がさらに減少すれば、利益は増加することになり、反対に、支出が増加しても、収入がそれを上回る増加があれば、利益は増加することになる。これらは、生産者の生産技術とも密接に関係している。

収入および支出の変化については、非常に多くの項目と関連していることか

ら、図6にあるツリー図などを活用して、整理しながら経営管理を考えることも有効である。

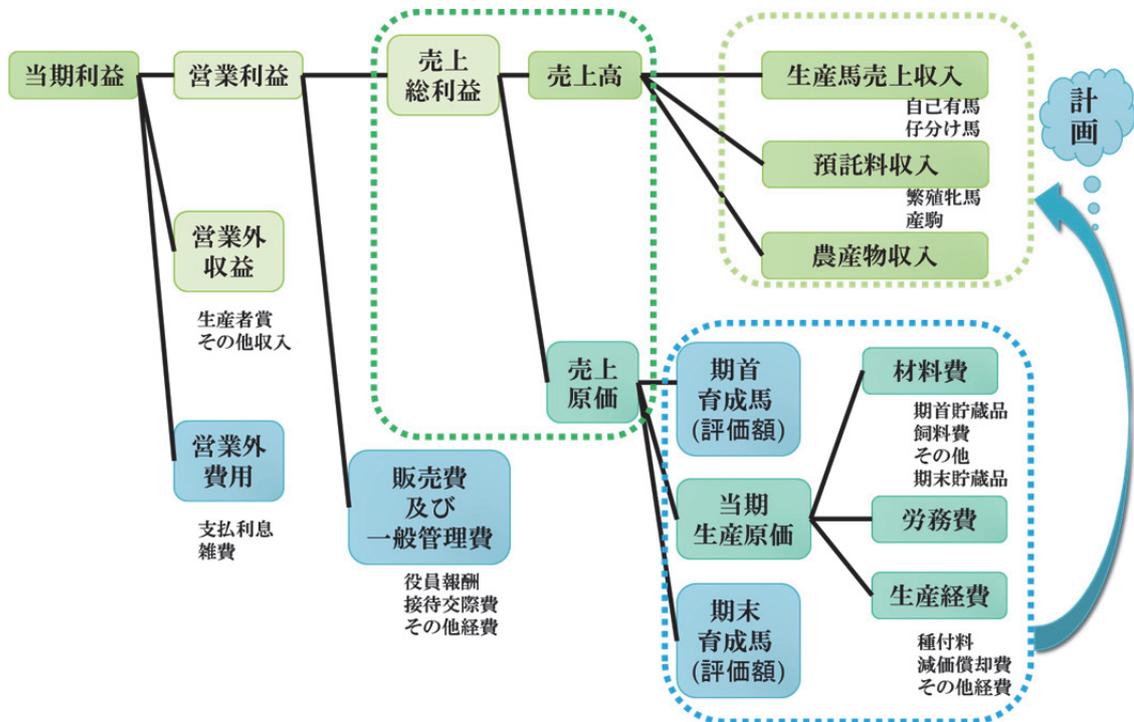


図6 経営分析ツリー図（中央畜産会資料より作成）

② 他の軽種馬経営との比較する

先述したように、軽種馬経営は変動が大きいという特徴を有している。そのため、生産者の経営指標として、単年度の数値だけでは問題があると言える。

そこで変動を小さくし、より客観的な指標として、「皆様の経営概要」では、3ヵ年平均を示している。3ヵ年平均が経営指標として望ましいのかについては検討の余地はあるものの、軽種馬生産の種付から販売までのサイクルを考えると、3ヵ年平均で見ることは、一つの指標となると考えられる。「皆様の経営概要」では、この3ヵ年平均をその年度時点での生産者の経営指標として用い、他の経営と比較することができる。

「皆様の経営概要」で比較対象としているのは、生産地調査の調査対象生産

者の平均値である。これは一つの指標となる。しかしながら、軽種馬経営はその分布も大きい。おおよそ、生産者の位置を知るためには、表5にある生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の分布(2020年)も参考になる。各指標の分布は、平均値が中央値(表7では、パーセンタイルの50%)よりも大きいことから、概ね左側に偏った分布(平均値よりも小さい数値に多く分布)をしていることがわかる。

表7 生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の分布(2020年 n=19)

		平均値	標準偏差	四分位範囲	パーセンタイル		
					25%	50%	75%
繁殖牝馬平均飼養頭数	(頭)	11.1	5.8	6.5	7.0	9.7	13.5
利益	(千円)	15,948	14,741	18,873	4,332	11,156	23,206
収入	(千円)	46,762	30,444	46,674	18,404	43,211	65,079
支出	(千円)	34,154	20,921	26,285	17,085	31,429	43,370
繁殖牝馬1頭あたり収益	(千円/頭)	1,495	1,381	1,532	607	879	2,139
繁殖牝馬1頭あたり収入	(千円/頭)	4,426	2,747	3,104	2,479	3,291	5,583
繁殖牝馬1頭あたり支出	(千円/頭)	3,223	1,737	2,333	2,001	2,167	4,335
繁殖牝馬1頭あたり種付料	(千円/頭)	560	453	373	291	382	664
繁殖牝馬1頭あたり飼料費	(千円/頭)	435	332	226	266	326	492
繁殖牝馬1頭あたり家畜医療費	(千円/頭)	114	60	78	63	105	141
繁殖牝馬1頭あたり減価償却費	(千円/頭)	489	333	441	274	445	715

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

さて、参考までに生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の特徴を整理する。なお、生産地調査対象生産者は20経営体(うち3ヵ年平均が求められるのは19経営体)であり、サンプルが限られることから、2020年度の結果の傾向として考える必要があることに留意するべきだろう。

まず、繁殖牝馬頭数で見た規模と利益および利益率の関係を図7に示した。規模と利益の関係は、ある程度、規模が大きいほど利益が大きい傾向がある。ただし、同じ程度の繁殖牝馬頭数の中で利益の幅が非常に大きいことに留意が必要であろう。結果として、繁殖牝馬頭数が少なくても利益が大きい生産者も

いる。利益率との関係も図6の右側に示した。なお、これ以降の利益率は利益/収入によって求めた。

利益率でみると、繁殖牝馬頭数との関係は、ほとんどないと言える。利益および利益率は、もちろん産駒の性別などにより大きく変動するが、技術や経営管理の違いによる部分に無視できないと考えられる。

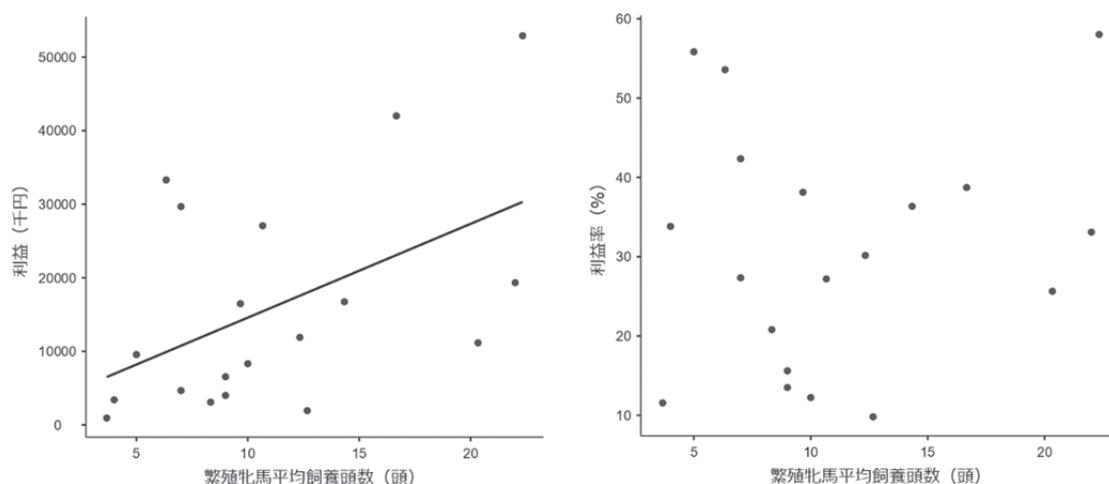


図6 繁殖牝馬頭数と利益および利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

次に、繁殖牝馬1頭当たりの種付料と利益および利益率の関係を図7に示した。

繁殖牝馬1頭当たりの種付料と繁殖牝馬1頭当たりの利益は、正の相関関係がある。しかし、利益率との関係となると、それほど明らかな関係にはない。当然であるが高い種付料は、支出の増加につながり、利益率は減少する。そのため、利益率で考えると、安い種付料であっても一定の利益を上げられれば、利益率が高くなる場合があり、こうした経営も参考になりえると考えられる。

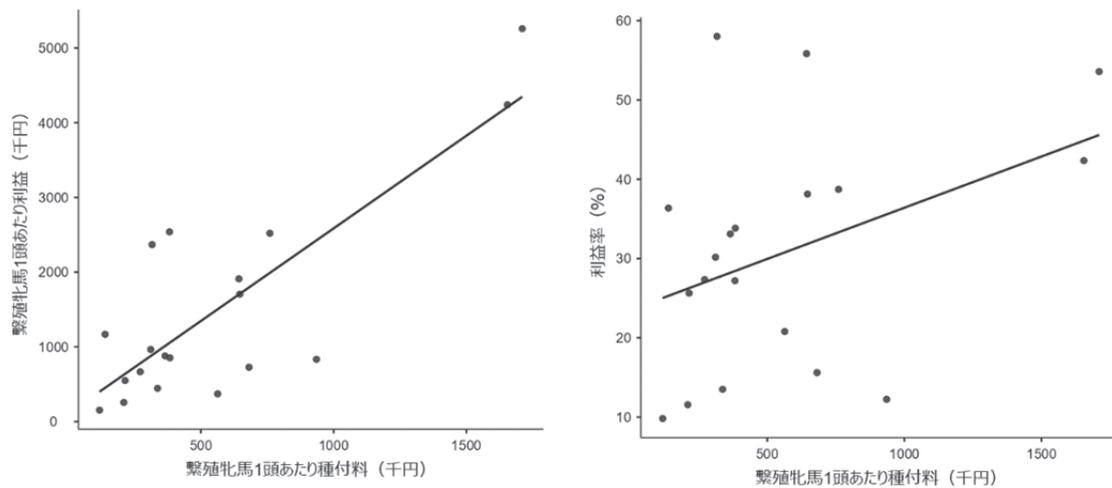


図7 種付料と利益および利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

最後に、収入に占める受託料の割合と利益率の関係を図8に示した。

収入に占める受託料の割合と利益率には、相関関係は見られない。しかしながら、収入に占める受託料の割合が40%以上の生産者は、利益率が25%以上であった。

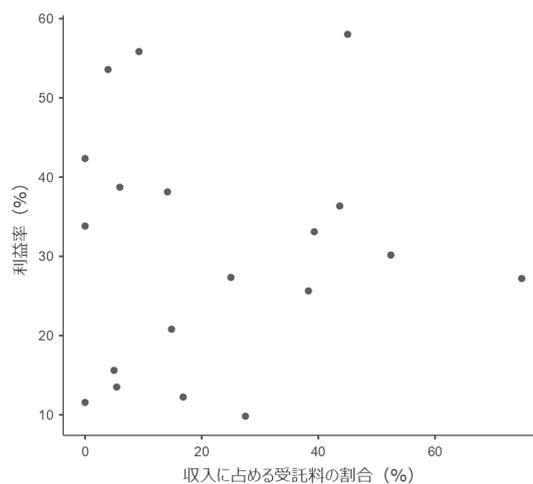


図8 収入に占める受託料割合と利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

以上より、軽種馬経営は、一定の傾向は見られるが、種付料と利益の関係を見てわかる通りリスクが大きいと言える。しかしながら、種付料が少ない生産者であっても、一定の利益および高い利益率の経営も存在した。こうした点から見ても、経営管理が重要であると言える。

③ 過去の「皆様の経営概要」を並べて、長期的な変化を捉える

3年間の変化だけではなく、長期の変化を見る必要もある。過去の「皆様の経営概要」を並べることで、経営の変化をとらえることができる。

例えば、2020年実績の「皆様の経営概要」に掲載される3ヵ年平均は、2018年から2020年の平均値である。同様に、2019年実績の「皆様の経営概要」では、2017年から2019年の平均値となり、これらを比較することで、移動平均の変化を見ることになる。

この3ヵ年平均を数年分比較することで、物価上昇の影響や産駒の市場の影響は、当然ながら関係するものの、単年度の経営収支だけではなかなか読み取れない経営管理の成果、生産の効率性の変化をある程度確認することができる。

例えば、ある年に繁殖牝馬1頭が受胎しなかった場合の影響を考えてみる。

ア. その年の利益を考えると、まず、もしも種付料を支払わない契約であった場合は、その年の種付料は減少し、支出はその分だけ減少する。収入については、以前の産駒の販売額であるため、収入には影響を与えない。よって、支出のみに影響するため、その年の利益は増加する可能性がある。

イ. 1年後の利益を考えると、産駒が1頭減るため、産駒にかかる飼料費などの支出が減るため、利益は増加する可能性がある。

ウ. 2年後の利益を考えると、本来なら販売する産駒が1頭減るため、収入が

減少して、利益は減少する可能性がある。

こう考えると、不受胎の悪影響は、単年度の経営収支だけでは読み取りにくいことがわかる。過去 3 ヶ年の平均値で考えると、産駒 1 頭を飼養する費用は減っているが、当然、産駒 1 頭分の収入も減り、さらにこの間の繁殖牝馬を飼養するため、その影響が表れるはずである。このようにケースを含め、産駒の生産効率を検討するためには、ある程度の期間の 3 ヶ年平均値で比較する必要がある。

なお、物価上昇の影響や産駒の市場の影響などの外的要因については、調査対象生産者の平均値の変化と併せて比較することで、ある程度把握できるはずである。

5. 生産費調査の考え方とその活用

産駒の生産効率を検討する場合において、本来であれば、産駒 1 頭当たりの生産費を計算して把握することが必要であるが、その計算は、非常に複雑で労力を伴う。その理由は、主に以下の 2 点にある。

① 産駒の生産効率を計算するために、産駒ごとの費用に分ける必要がある。

経営形態が軽種馬部門のほかに別の部門がある場合は、まず、軽種馬部門と別の経営部門の費用に分ける。さらに、軽種馬部門の費用について、産駒ごとに分ける。この分け方については、産駒 1 頭ごとの状況を把握するのには限界があるため、生産費調査では、基本的には産駒の数で割るなど推計することになる。しかしながら、産駒の生産費に大きく影響すると考えられる、種付料と産駒を生産するために必要な繁殖牝馬にかかる費用については、産駒ごとの状況を把握し計算をしている。後者の繁殖牝馬にかかる費用として重要なポイントは、ア．繁殖牝馬の減価償却費を産駒に対応した繁殖牝馬ごとに計算している点、イ．繁殖牝馬の飼養費も産駒ごとに計算している点である。とりわけ、繁殖牝馬の飼養費を産駒ごとにどのように分けて考えるのかは、非常に複雑である。

繁殖牝馬の飼養費については、「軽種馬生産費等調査報告書」の計算期間の解説部分で記載されている。図 9 は、その例を示している。図の例にある、繁殖牝馬導入後の最初の産駒である産駒 A と産駒 D は、繁殖牝馬導入からその産駒が販売されるまでの期間を計算期間とし、その間の繁殖牝馬の飼養費も生産費に計算する。次の産駒である産駒 B および産駒 E は、前の産駒が販売された後の期間が繁殖牝馬の計算期間としている。そのため、産駒 E のように不受胎などにより空胎期間が長いと、明らかに産駒の生産費が増加する。このように、空胎期間も生産費に反映されるようになっている。このように当然のことなが

ら、繁殖牝馬の空胎期間の長さは、産駒の生産費用に大きく関係していることが明確である。

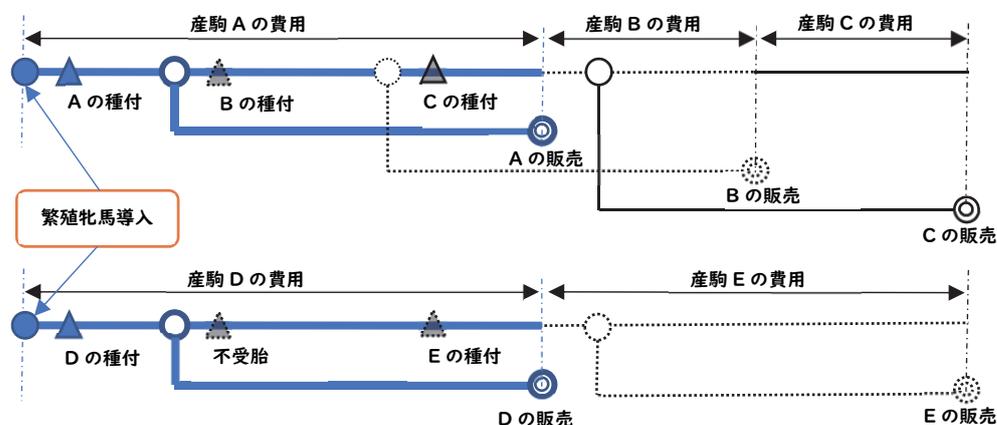


図9 繁殖牝馬の費用と産駒の生産費の計算期間

② 生産費の家族労働費は、労働時間×賃金によって算出されている。

生産費においては、家族労働時間を調べている。そして、単価としては、「毎月勤労統計（厚生労働省）」の建設業、製造業、運輸・通信業の5～29人規模の賃金を用いている。したがって、青色申告決算書にある人件費とは異なり、生産費調査の結果を読み取る際も注意が必要である。このような計算をすることで、家族経営であれば、家族労働によって得られた対価と、生産によって得られた収益を明確に区別している。

以上のような生産費の考え方を理解することは、ア．経営管理に役立てることができること、イ．日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」に掲載されている生産費の数値を目安として活用できること、の2点につながる可能性がある。

参考までに、図10では、2016年から2020年の産駒1頭当たりの生産費を示

している。2020年の産駒1頭当たり生産費は、650万円で家族労働費を除くと513万円であった。また、費用の内訳としては、種付料が162万円、飼料費71万円、繁殖牝馬の償却費25万円、労働費161万円（うち家族労働費は138万円）であった。

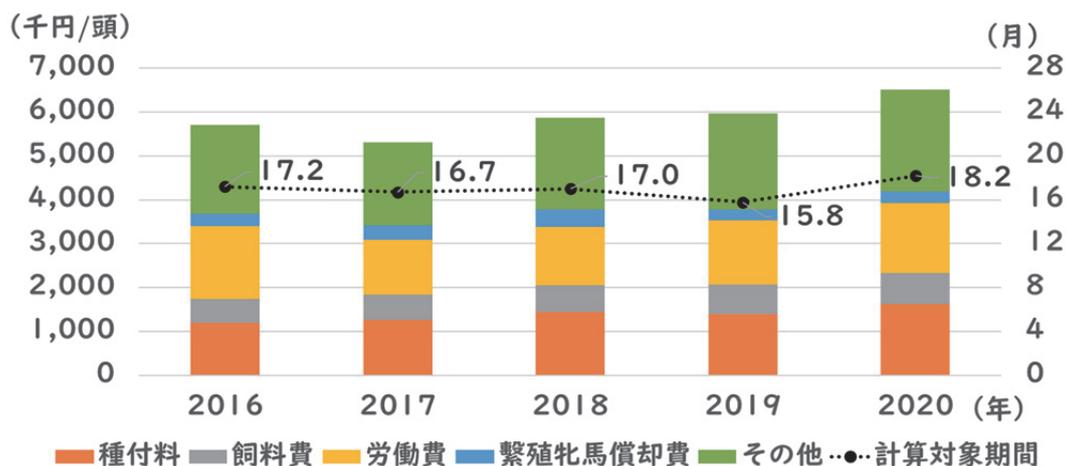


図10 産駒1頭当たり生産費（2016年～2020年）

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」

6. おわりに

本稿では、「皆様の経営概要」の紹介およびその活用方法を中心に解説をしてきた。また、「皆様の経営概要」が配付されていない生産者も、同様のデータ整理ができるための方法についても、解説してきた。

「皆様の経営概要」は、簡易なデータ整理をすることで、ある程度の経営管理につながることを期待できる。さらに、日本軽種馬協会「軽種馬経営財務管理指導教本」（2008）のツールとしても期待している。

今後、これらの資料を活用し、軽種馬生産者の経営管理に少しでも役立てば幸いである。

Ⅱ. 営農指導における経営把握の留意点

総括畜産コンサルタント 原田 要

1. はじめに

青色申告決算書は、経営の重要な情報を記載しているが、経営の全てを網羅しているわけではない。

軽種馬経営は他の畜種と異なる特徴があり、それらを踏まえて調査を行わないと、経営を理解したつもりでも実際には把握できていないことになりかねない。

また、せっかく把握した経営の経営内容も、的確な分析を行わないと無駄な調査に終わってしまう。

そこで、本稿では青色申告決算書では把握が難しく、軽種馬経営を把握する際の最も重要なポイントをまとめた。

2. 軽種馬経営分析の着眼点

- ① 収益構成（産駒販売・受託料・生産者賞・シジケート収入・その他）の分析。

時系列、費用対効果の計測。

- ② 種付費、繁殖牝馬償却費、販売価格の関連性。

ア. すべてのデータ（以下イ、ウ）は、計画値と実績値の両者を整理し検討すること。

イ. 種付費と繁殖牝馬償却費、両費用のバランスが必要。

ウ. 種付費と販売価格の整理。

a 経営全体で、種付費総額の上限、販売総額の下限と上限の期待値と実績を整理し管理。

b アを1頭当たり平均値にして管理。

c 繁殖牝馬別に、種付費と販売価格を整理し管理。

- ③ 預託料の分析。積算根拠とその実績、販売実績との比較、コンサインが預託の有無。
- ④ 競走馬経費の分析、動向見通し等。
- ⑤ 減価償却費の分析、シジケート減価償却費の有無、割合等。
- ⑥ 種苗費、飼料・敷料・肥料費の分析。放牧地の管理、自給飼料の質。

3. 農業経営者の10カ条

- ① 適正な営農計画（月別、家計費を含む）の策定と実績の点検が出来ること。
（経済の計画化）
- ② 所得にそった生活の実践が出来ること。
（節度ある生活）
- ③ 家族、法人構成員と協力、分担して、農業経営の管理が出来ること。
（ガラス張りの経営）
- ④ ゆとりある経営で、生産性、収益性を追求した経営が出来ること。
（企業的感觉のある経営）
- ⑤ 適切な肥培・飼養管理技術の習得と実践が適期に出来ること。
（質感のある技術管理）
- ⑥ 適切な販売管理技術の習得とその適切な実践が適期に出来ること。
（適切な販売管理）
- ⑦ 土地、機械施設、家畜の維持管理と投資が適切に出来ること。
（生産財の調達と管理）
- ⑧ 借入金が円滑に償還できること。
（円滑な回収と返済）
- ⑨ 経営実績、新技術、諸情報を踏まえた経営目標の実践が出来ること。
（経営戦略の具体化）
- ⑩ 地域の農業者、関係機関と連携・協調をした営農生活が出来ること。
（協調性のある活動）

を整理出来ると考える。

飼養記録簿は経済、会計記録に勝る不可欠なものであり、これが無ければ正確な経営把握は不可能ではないか。そして、飼養記録は経営者、管理者、実務者が自らの経営を把握するために行うものである。

5. 経営成果の把握、経営経済評価を行うための資料

- ① 営農計画書
- ② 組合員勘定報告書
- ③ 財務諸表、所得税青色申告決算書付表（軽種馬生産者用）

6. 経営変化の要因分析

- ① 経営状態を見るうえでいちばん注目すべきは、「去年との比較」。
- ② 分析の基本型→まずは割り算して「1単位あたりいくらか」、次に「比較」して力の流れを見る。
- ③ 分析の極意→ある特定の数字を定期的におさえる。
- ④ 年次変動が大きい、不安定性がある。本当にそうか。
- ⑤ だから、どうする。

7. 収支の分解（量と単位当たり金額）

- ① 産駒販売金額 → 販売頭数 と 1頭当たり販売金額
- ② 預託料（受入） → 預託頭数 と 1頭当たり預託料
- ③ 種付料 → 種付頭数 と 1頭当たり種付け料
- ④ 購入飼料費、肥料費、敷料費等

様々な費用が混ざっている場合は、さらに費用科目を細分化出来ないか見てみる。

例えば、購入飼料費では、購入粗飼料費と穀類等分けて、購入粗飼料費を給与頭数と1頭当たり購入粗飼料費に分解してみる。

8. 単位当たり金額の分解

- ① 1頭当たり預託料 → 預託期間と預託単価
- ② 1頭当たり購入粗飼料費 → 1頭当たり購入量と購入単価

9. 収支の変化に対する寄与度の大きい項目（具体例）

別紙樹形図で差引収支額（令和3年）が3ヵ年平均（平成30年～令和2年）に対して3,480千円（変化率12.8%）増加した要因を示した

（樹形図 5戸の平均値で、個別事例ではありません）

差引収支額の変化に対して、寄与度（影響）の大きい順に記した①～⑤について説明する。

- ① **雑収入**が6,280千円（寄与度23.1%）増加している。これが差引収支増になり1番大きく寄与（影響）している。この内訳についても確認したいところである。
- ② **1頭当たり販売金額**が、6,927千円／頭から8,647千円／頭に1,720千円／頭に増加している。これが差引収支増になり、2番目に大きく寄与（影響）している。この増加によって販売金額が6,192千円（寄与度2.8%）増加し、収支を増加させている。
- ③ **1頭当たり種付料**が、1,394千円／頭から2,265千円／頭に871千円／頭増加している。これが差引収支減になり3番目に影響している。この支出増加によって種付料が、3,657千円（寄与度マイナス13.5%）増加し、収支を減少させている。
- ④ **預託頭数**が、9.1頭から10.4頭に1.3頭増加している。これが差引収支

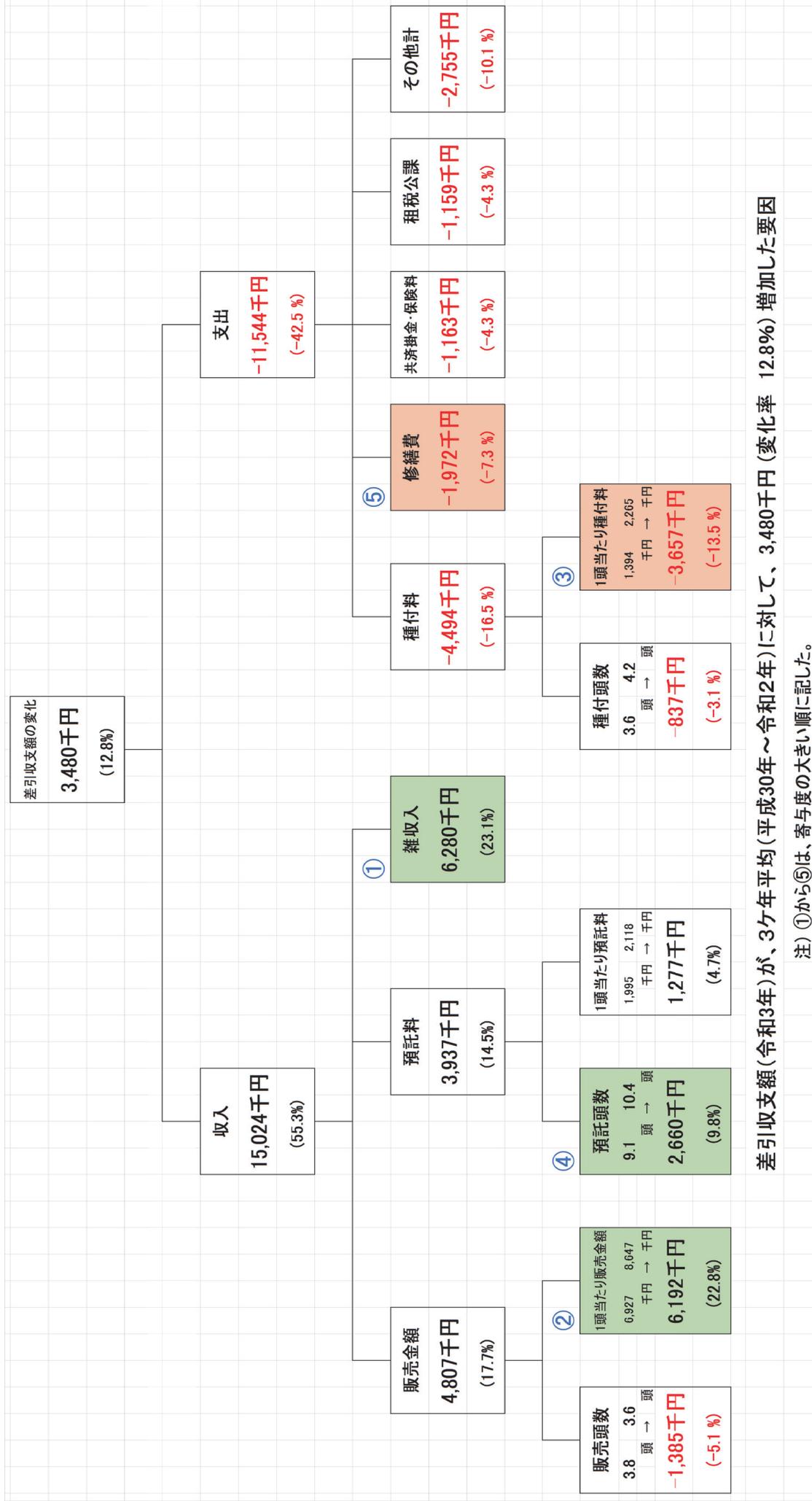
増になり、4番目に大きく寄与（影響）している。この増加によって預託料（受入収入）が、2,660千円（寄与度9.8%）増加し、収支を増加させている。

- ⑤ **修繕費**が1,972千円（寄与度マイナス7.3%）増加している。この支出増加が差引収支減になり5番目に影響している。

10. 実態の把握が、すべてを制覇する

- ① 改善、実践したこと。
- ② その成果をお互いに見届けてこそ。
- ③ その喜び、実績を共有できる。

具体例



差引収支額(令和3年)が、3ヶ年平均(平成30年~令和2年)に対して、3,480千円(変化率 12.8%)増加した要因

注) ①から⑤は、寄与度の大きい順に記した。

Ⅱ. 資料編

サンプル

中畜太郎 様

2018年～2020年実績
皆様の経営概要
【軽種馬生産地調査より】

軽種馬の生産地調査につきましては、日頃から格別のご協力をいただき誠にありがとうございます。

このたび、2018年～2020年実績の調査結果がまとまりましたのでお知らせいたします。今後の皆様の農業経営に少しでもお役に立てれば幸いです。

なお、生産費統計では、皆様方よりご協力・ご提供いただいた記帳データや聞き取ったデータを基に集計を行い、軽種馬経営の安定化のための基礎資料等として利用されています。

皆様の経営概況

経営実績(貴殿)

1	経営名	中畜太郎			経営開始年	昭和33年																																																																																																																																																																														
2	住所	東京都千代田区外神田2-16-2																																																																																																																																																																																		
3	経営概要	<table border="1"> <tr> <td>経営形態</td> <td colspan="5">軽種馬専業</td> </tr> <tr> <td>兼業業種</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>軽種馬部門</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>労働力員数</td> <td>2018</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>3ヵ年平均</td> <td>全体値(3ヵ年)</td> </tr> <tr> <td> 家族労働(人)</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3.0</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td> 雇用労働(人)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1.0</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td> 常雇用(人)</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>0.3</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td> 臨時雇用(人)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1.3</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>繁殖牝馬平均飼養頭数</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4.0</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td> 自己有(頭)</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3.7</td> <td>6.1</td> </tr> <tr> <td> 仔分け(頭)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td> 預託(頭)</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>0.3</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>自己有</td> <td>仔分け</td> <td>預託</td> <td>全体値(当概年)</td> </tr> <tr> <td>種付頭数(2018年、頭)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>195.0</td> </tr> <tr> <td>生産頭数(2019年、頭)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>161.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2018</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>3ヵ年平均</td> <td>全体値(3ヵ年)</td> </tr> <tr> <td>販売頭数(総数)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1.7</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td> 自己有2歳馬(頭)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td> 自己有1歳馬(頭)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1.7</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td> 自己有当歳馬(頭)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td> 仔分(頭)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td> 繁殖牝馬(頭)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>飼料生産実面積(ha)</td> <td>24.0</td> <td>24.0</td> <td>24.0</td> <td>24.0</td> <td>23.9</td> </tr> <tr> <td> 自己有地(ha)</td> <td>21.8</td> <td>21.8</td> <td>21.8</td> <td>21.8</td> <td>16.6</td> </tr> <tr> <td> 採草地(ha)</td> <td>9.8</td> <td>9.8</td> <td>9.8</td> <td>9.8</td> <td>6.8</td> </tr> <tr> <td> 放牧地(ha)</td> <td>12.0</td> <td>12.0</td> <td>12.0</td> <td>12.0</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td> 借地(ha)</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td> 採草地(ha)</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td> 放牧地(ha)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.0</td> <td>1.8</td> </tr> </table>					経営形態	軽種馬専業					兼業業種						軽種馬部門						労働力員数	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)	家族労働(人)	3	3	3	3.0	2.8	雇用労働(人)	1	2		1.0	2.9	常雇用(人)			1	0.3	1.0	臨時雇用(人)	1	2	1	1.3	2.0	繁殖牝馬平均飼養頭数	3	5	4	4.0	11.5	自己有(頭)	3	5	3	3.7	6.1	仔分け(頭)				0.0	1.0	預託(頭)			1	0.3	4.3		計	自己有	仔分け	預託	全体値(当概年)	種付頭数(2018年、頭)	2	2	0	0	195.0	生産頭数(2019年、頭)	2	2			161.0		2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)	販売頭数(総数)	1	2	2	1.7	3.8	自己有2歳馬(頭)				0.0	0.1	自己有1歳馬(頭)	1	2	2	1.7	3.1	自己有当歳馬(頭)				0.0	0.2	仔分(頭)				0.0	0.4	繁殖牝馬(頭)				0.0	0.0	飼料生産実面積(ha)	24.0	24.0	24.0	24.0	23.9	自己有地(ha)	21.8	21.8	21.8	21.8	16.6	採草地(ha)	9.8	9.8	9.8	9.8	6.8	放牧地(ha)	12.0	12.0	12.0	12.0	9.8	借地(ha)	2.3	2.3	2.3	2.3	7.2	採草地(ha)	2.3	2.3	2.3	2.3	5.3	放牧地(ha)				0.0	1.8
経営形態	軽種馬専業																																																																																																																																																																																			
兼業業種																																																																																																																																																																																				
軽種馬部門																																																																																																																																																																																				
労働力員数	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)																																																																																																																																																																															
家族労働(人)	3	3	3	3.0	2.8																																																																																																																																																																															
雇用労働(人)	1	2		1.0	2.9																																																																																																																																																																															
常雇用(人)			1	0.3	1.0																																																																																																																																																																															
臨時雇用(人)	1	2	1	1.3	2.0																																																																																																																																																																															
繁殖牝馬平均飼養頭数	3	5	4	4.0	11.5																																																																																																																																																																															
自己有(頭)	3	5	3	3.7	6.1																																																																																																																																																																															
仔分け(頭)				0.0	1.0																																																																																																																																																																															
預託(頭)			1	0.3	4.3																																																																																																																																																																															
	計	自己有	仔分け	預託	全体値(当概年)																																																																																																																																																																															
種付頭数(2018年、頭)	2	2	0	0	195.0																																																																																																																																																																															
生産頭数(2019年、頭)	2	2			161.0																																																																																																																																																																															
	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)																																																																																																																																																																															
販売頭数(総数)	1	2	2	1.7	3.8																																																																																																																																																																															
自己有2歳馬(頭)				0.0	0.1																																																																																																																																																																															
自己有1歳馬(頭)	1	2	2	1.7	3.1																																																																																																																																																																															
自己有当歳馬(頭)				0.0	0.2																																																																																																																																																																															
仔分(頭)				0.0	0.4																																																																																																																																																																															
繁殖牝馬(頭)				0.0	0.0																																																																																																																																																																															
飼料生産実面積(ha)	24.0	24.0	24.0	24.0	23.9																																																																																																																																																																															
自己有地(ha)	21.8	21.8	21.8	21.8	16.6																																																																																																																																																																															
採草地(ha)	9.8	9.8	9.8	9.8	6.8																																																																																																																																																																															
放牧地(ha)	12.0	12.0	12.0	12.0	9.8																																																																																																																																																																															
借地(ha)	2.3	2.3	2.3	2.3	7.2																																																																																																																																																																															
採草地(ha)	2.3	2.3	2.3	2.3	5.3																																																																																																																																																																															
放牧地(ha)				0.0	1.8																																																																																																																																																																															
4	収支概要	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>2018</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>3ヵ年平均</td> <td>全体値(3ヵ年)</td> </tr> <tr> <td>利益</td> <td>-2,205</td> <td>-701</td> <td>5,470</td> <td>855</td> <td>16,924</td> </tr> <tr> <td>収入合計</td> <td>6,865</td> <td>7,927</td> <td>13,286</td> <td>9,359</td> <td>50,417</td> </tr> <tr> <td> 販売金額</td> <td>3,540</td> <td>3,955</td> <td>6,732</td> <td>4,742</td> <td>27,881</td> </tr> <tr> <td> 産駒(自己有)</td> <td>3,240</td> <td>3,955</td> <td>6,732</td> <td>4,642</td> <td>26,333</td> </tr> <tr> <td> 産駒(仔分け)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1,544</td> </tr> <tr> <td> 繁殖牝馬</td> <td>300</td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td> 受託料</td> <td></td> <td></td> <td>1,240</td> <td>413</td> <td>12,817</td> </tr> <tr> <td>支出合計</td> <td>9,070</td> <td>8,627</td> <td>7,816</td> <td>8,504</td> <td>33,493</td> </tr> <tr> <td> 種付料</td> <td>550</td> <td>891</td> <td>1,200</td> <td>880</td> <td>5,675</td> </tr> <tr> <td> 飼料費</td> <td>1,065</td> <td>1,065</td> <td>1,162</td> <td>1,097</td> <td>3,269</td> </tr> <tr> <td> 人件費</td> <td>50</td> <td>33</td> <td>49</td> <td>44</td> <td>2,125</td> </tr> <tr> <td> 常雇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1,690</td> </tr> <tr> <td> 臨時雇</td> <td>50</td> <td>33</td> <td>49</td> <td>44</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td> 減価償却費</td> <td>2,482</td> <td>1,709</td> <td>1,307</td> <td>1,832</td> <td>3,467</td> </tr> <tr> <td> 馬</td> <td>672</td> <td>92</td> <td>100</td> <td>288</td> <td>891</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1,645</td> <td>1,470</td> <td>1,006</td> <td>1,374</td> <td>2,576</td> </tr> </table>						2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)	利益	-2,205	-701	5,470	855	16,924	収入合計	6,865	7,927	13,286	9,359	50,417	販売金額	3,540	3,955	6,732	4,742	27,881	産駒(自己有)	3,240	3,955	6,732	4,642	26,333	産駒(仔分け)				0	1,544	繁殖牝馬	300			100	5	受託料			1,240	413	12,817	支出合計	9,070	8,627	7,816	8,504	33,493	種付料	550	891	1,200	880	5,675	飼料費	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269	人件費	50	33	49	44	2,125	常雇				0	1,690	臨時雇	50	33	49	44	258	減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467	馬	672	92	100	288	891	その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576																																																																								
	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)																																																																																																																																																																															
利益	-2,205	-701	5,470	855	16,924																																																																																																																																																																															
収入合計	6,865	7,927	13,286	9,359	50,417																																																																																																																																																																															
販売金額	3,540	3,955	6,732	4,742	27,881																																																																																																																																																																															
産駒(自己有)	3,240	3,955	6,732	4,642	26,333																																																																																																																																																																															
産駒(仔分け)				0	1,544																																																																																																																																																																															
繁殖牝馬	300			100	5																																																																																																																																																																															
受託料			1,240	413	12,817																																																																																																																																																																															
支出合計	9,070	8,627	7,816	8,504	33,493																																																																																																																																																																															
種付料	550	891	1,200	880	5,675																																																																																																																																																																															
飼料費	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269																																																																																																																																																																															
人件費	50	33	49	44	2,125																																																																																																																																																																															
常雇				0	1,690																																																																																																																																																																															
臨時雇	50	33	49	44	258																																																																																																																																																																															
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467																																																																																																																																																																															
馬	672	92	100	288	891																																																																																																																																																																															
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576																																																																																																																																																																															

繁殖牝馬平均飼養頭数グラフ: 年間の実在舎頭数の比較(例: 半年のみ在舎の場合は0.5頭で換算)

労働力(家族+常雇)グラフ: 労働力員数の比較

生産頭数/種付頭数グラフ: 種付頭数に対する生産(分娩)頭数の割合の比較

自己有1歳馬販売頭数/繁殖牝馬頭数グラフ: 繁殖牝馬に対する自己有1歳馬の販売頭数の割合の比較

繁殖牝馬1頭当たり収益グラフ: 繁殖牝馬1頭当たりの収益の比較

繁殖牝馬1頭当たり支出グラフ: 繁殖牝馬1頭当たりの支出の比較

利益の変化グラフ: 3ヵ年での利益の変化の比較グラフ

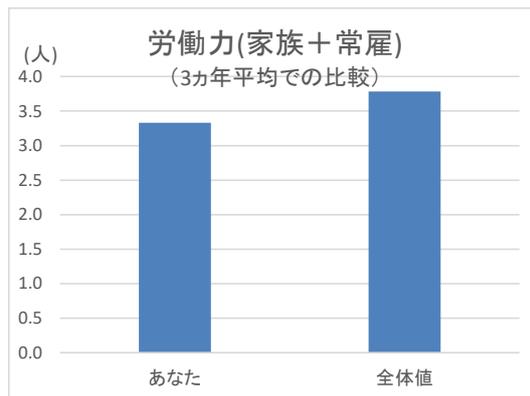
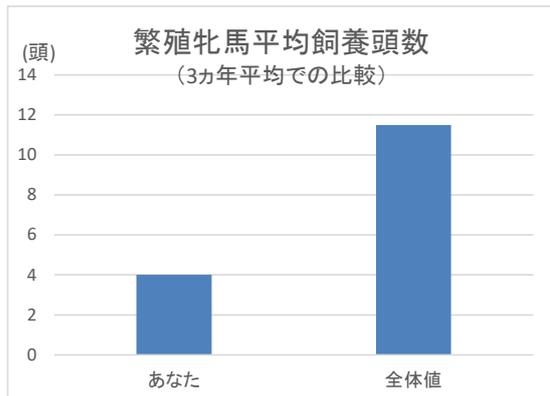
繁殖牝馬1頭当たり経営概要: 繁殖牝馬頭数等の項目を調査対象経営内での偏差値を算出

5: 偏差値65以上、4: 偏差値55~65、3: 偏差値45~55、2: 偏差値35~45、1: 偏差値35以下

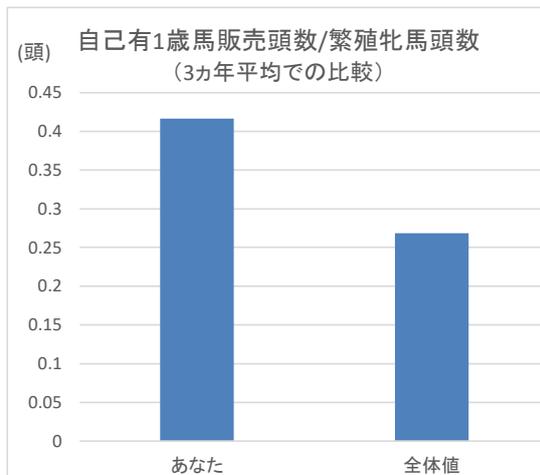
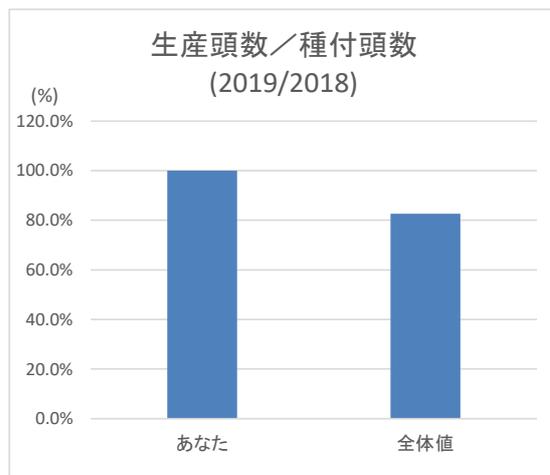
但し種付料及び購入飼料については、偏差値35以下を5、35~45を4、55~65を2、65以上を1とした

あなたの経営概要と全体値との比較

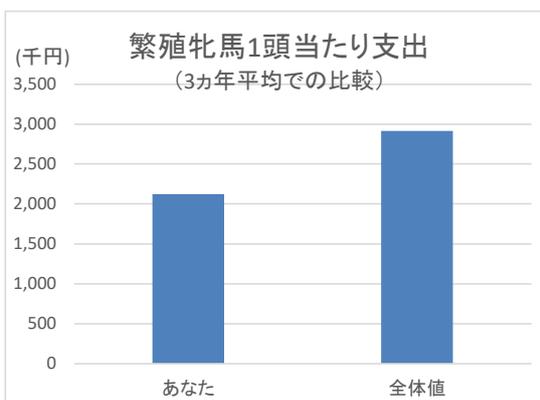
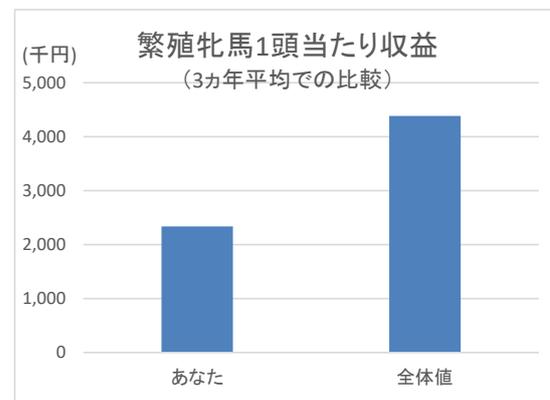
経営規模



生産率



収益性



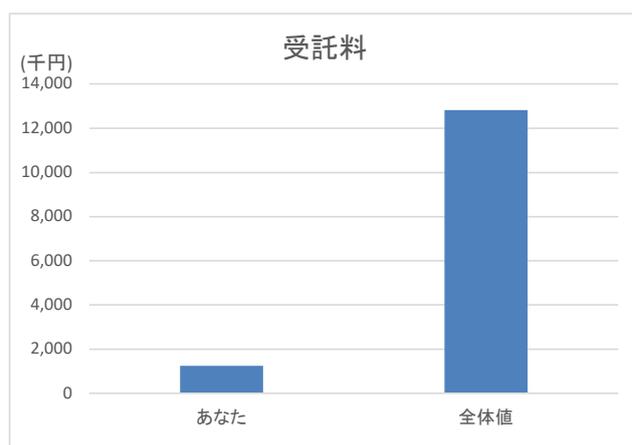
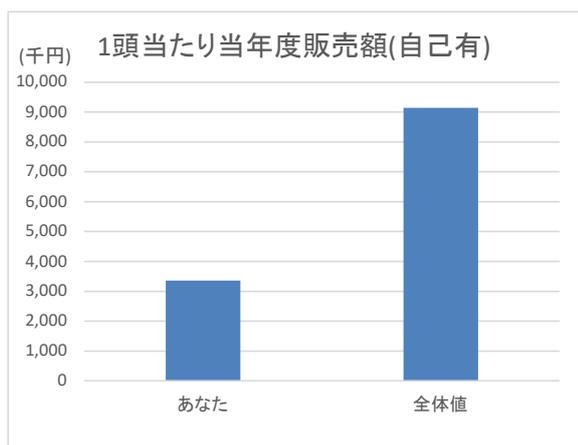
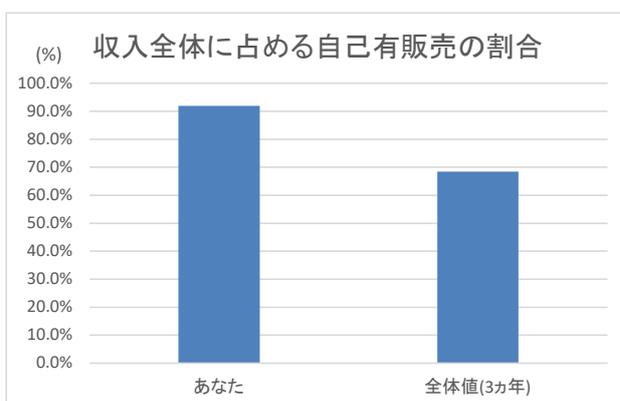
皆様の経営収支について

表 統計表(貴殿)

1 収入

上段(千円)
下段(小計①に対する割合%)

	牧場当たり				全体値
	2018年実績	2019年実績	2020年実績	3カ年平均	
販売金額①	3,540	3,955	6,732	4,742	27,881
産駒(自己有)	51.6%	49.9%	50.7%		55.3%
うち牡	3,240	3,955	6,732	4,642	26,333
うち牝	47.2%	49.9%	50.7%		
産駒(仔分)	1 頭	1 頭	0 頭	0.7 頭	1.5
繁殖牝馬	0 頭	1 頭	2 頭	1.0 頭	1.6
受託料	0	0	0	0	1,544
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
その他収入(牧草・たい肥・補助金他)③	300	0	0	100	5
4.4%	0.0%	0.0%	0.0%		
受託料	0	0	1,240	413	12,817
0.0%	0.0%	9.3%			25.4%
その他収入(牧草・たい肥・補助金他)③	3,325	3,971	5,314	4,203	6,628
生産者賞を含まず	48.4%	50.1%	40.0%		
小計①	6,865	7,927	13,286	9,359	50,409
農産物の棚卸 期首②	0	0	0	0	171
期末③	0	0	0	0	178
収入合計(①-②+③)	6,865	7,927	13,286	9,359	50,417
(下段 前年比%)		(115.5)	(167.6)		



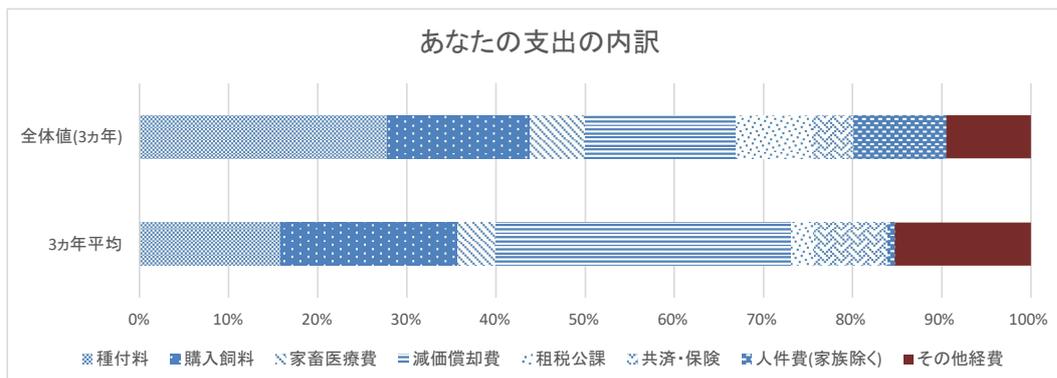
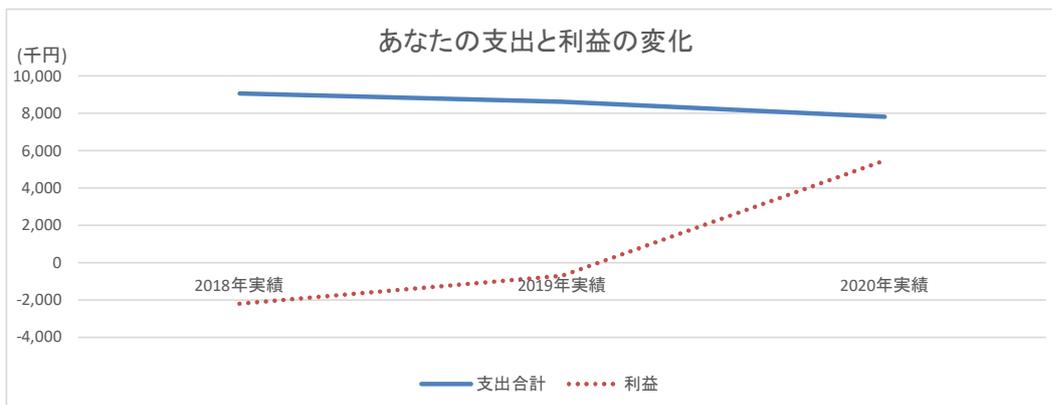
皆様の経営収支の内容

表 統計表(貴殿)

2 支出

上段(千円)
下段(小計①に対する割合%)

	牧場当たり				全体値(3カ年)
	2018年実績	2019年実績	2020年実績	3カ年平均	
物 財 費					
種付料	550	891	1,200	880	5,675
	7.1%	11.1%	14.8%	10.4%	20.4%
購入飼料	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269
	13.7%	13.2%	14.3%	12.9%	11.8%
家畜医療費	274	254	185	238	1,261
	3.5%	3.2%	2.3%	2.8%	4.5%
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467
	31.9%	21.3%	16.1%	21.5%	12.5%
馬	672	92	100	288	891
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576
租税公課	162	128	140	143	1,733
	2.1%	1.6%	1.7%	1.7%	6.2%
共済・保険	462	487	430	460	947
	5.9%	6.1%	5.3%	5.4%	3.4%
その他経費	723	844	967	845	1,938
	9.3%	10.5%	11.9%	9.9%	7.0%
小計①	7,773	8,039	8,107	7,973	25,633
労 働 費					
人件費	50	33	49	44	2,125
		0.4%	0.6%	0.5%	7.7%
常雇入料	0	0	0	0	1,690
臨時雇入料	50	33	49	44	258
福利厚生費	0	0	0	0	177
小計②	7,823	8,072	8,155	8,017	27,758
地代・賃借料・利子・割引料	141	260	63	155	1,865
小計③	8,128	8,480	8,419	8,342	29,439
農産物以外の棚卸期首⑤	3,099	2,158	2,193	2,483	12,256
期末⑥	2,158	2,010	2,796	2,321	8,201
その他				44.8%	33.4%
				100.0%	100.0%
支出合計	9,070	8,627	7,816	8,504	
利益	-2,205	-701	5,470	855	



アンケート表

生産者感想

調査員メモ

この資料等についての連絡

公益社団法人 中央畜産会

経営支援部（支援・調査）

電話：03-6206-0843

FAX：03-5289-0890

担当者：

令和 年分 所得税青色申告決算書付表 (例)

(軽種馬生産者用)

住所	氏名
----	----

(自 1 月 1 日至 12 月 31 日)

科	目		科	目		業	馬	種	業
	1	2		19	20				
収入	販売金額		消耗品費	19		業	馬	種	業
	預託料		共済掛金・保険料	20					
	家事消費費		家畜医療費	21					
	事業消費費		旅費・通信費	22					
	雑収入		販売手数料	23					
金額	小計	(1+2+3+4)	販仲	24					
	農産物の期首		利子割引料	25					
	棚卸高		放牧管理費	26					
	期末		雇人費	27					
	計	(5-6+7)	減価償却費	28					
経費	租税公課		牛馬以外のもの	29					
	種付料		地代賃借料	30					
	種苗費		各種負担金	31					
	飼料、敷料費		接待交際費	32					
	肥料費		雑費	33					
	農具費		小計	34					
	農薬衛生費		農産物の期首	35					
	諸材料費		外卸高	36					
	修繕費		計	37					
	動力光熱費		(34+35-36)						
			差引金額	38					業
			貸倒引当金	39					
			繰戻額	40					
			引当	41					
			等	42					
			専従者給与	43					
			貸倒引当金	44					
			・	45					
			準備	46					
			金	47					
			計	48					
			青色申告特別控除前の所得金額(38+42-48)	49					
			青色申告特別控除額	50					
			(内 免税所得)	51					
			所得金額(49-50)						

○ 青色申告特別控除については、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を読んでください。

※軽種馬生産者用の青色申告決算書付表は任意帳票なので、地域によって様式が異なります。

(令和元年分以降用)

A 収入金額の内訳

区分	作付面積 飼料頭 羽数 ^a	本年收穫 量(販売 頭羽数) kg	農産物の期首棚卸高		販売金額 円	家事消費 事業消費 金額 円	農産物の期末棚卸高	
			数量 kg	金額 円			数量 kg	金額 円
田								
畑								
飼料								
作物								
小計								
農作物計				6				7
軽種馬以外の家畜								
合計					1	3		

- (記載要領) 1 上記の1・3・6・7・35・36は、1ページの同番号欄に移記して下さい。
 2 Aの「販売金額」及び「家事消費、事業消費」欄には、本年1月1日から、12月31日までの期間中に販売または家事消費・事業消費した期首棚卸分と本年産のものとの金額を記載します。
 3 農産物の棚卸金額は、收穫時の生産者販売価格により計算します。

B 農産物以外の棚卸高の内訳

区分	期首棚卸金額		期末棚卸金額	
	数量 頭	金額 円	数量 頭	金額 円
種付料				
飼育費				
計				
種付料 子畜買入費				
育成費				
計				
肥料				
農薬				
購入飼料				
その他				
合計		35		36

シンジケート加入内訳

シンジケート の名称	本株出資の状況		本年余剰株の取得		本年中における本株、員内余剰株の種付の使用状況				本株の譲渡			分配金の状況			
	取得 年月	持株 数	取得価額 円	口数	取得価額 円	自己使用 牝馬名	種付証書の売却(種付権利の売却)			年 月	住 所	氏 名	譲 渡 価 額 円	分配 月日	分配 収入 円
							住 所	氏 名	売却金額 円						

雑収入等の内訳

区分	基本(頭数)	収入金額	備考
生産者賞		円	
育成馬の損害保険収入			
仲介手数料			

- (記載要領)
- シンジケート加入内訳には、名義が自分で、実際の所有者が他人の場合であっても記入し、その場合適宜の空欄に実際の所有者の住所、氏名を記入して下さい。
 - 「種付証書の売却」欄には、余剰株の売却金額も含めて記載して下さい。
 - 雑収入等の内訳には、生産者賞、育成馬の損害保険収入その他、1ページの「雑収入4」欄に記載されたものの内訳を記入して下さい。

E 地代・賃借料の内訳

支払先の住所・氏名	小作料、賃貸料等の別	面積 数	積 量	支 払 額
				円

F 利子割引料の内訳(農協・金融機関を除きます。)

支払先の住所・氏名	期末現在の借入金等の金額	本年中の 利子割引料	本年中の 左のうち必要 経費算入額
	円	円	円

G 税理士・弁護士等の報酬・料金の内訳

支払先の住所・氏名	本年中の 報酬等の金額	左のうち必要 経費算入額	所得税及び復興特別 所得税の源泉徴収税額
	円	円	円

繁殖牝馬・種付料、受入預託料の明細

繁殖牝馬名	サラ アラ 区分	繁殖 雌馬 所有 区分	取得年月 又は 入厩年月	本年種付したもの				仔分、預託馬の馬主及び受入預託料					
				種 牡 馬 名	受 胎 不 受 胎 区	種付料(シンジケートも含む) 馬主負担分 円	種付料の支払先 住 所	氏 名	住 所	氏 名	仔分 歩合 %	受入預託料 円	
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
	サ	自・委 預・仔											
	ア	自・委 預・仔											
合 計						10						2	

----- 1ページの10欄へ移記します。

----- 1ページの2欄へ移記します。

記載要領

- 1 この内訳書は、12月31日現在で記載します。年途中で転用、死亡した馬がある場合は、それぞれの事実があった日現在で、記載して下さい。
- 2 繁殖牝馬所有区分欄.....自己所有馬は「自」、他の軽種馬生産者へ委託している馬は「委」、他の馬主から委託されて飼育している馬は「預」、仔分を条件に飼育している馬は「仔」に○を付して下さい。
- 3 取得年月又は入厩年月日.....仔分又は預託の条件により管理している馬は、入厩した年月を記載します。
- 4 自己所有のシンジケート株による種付は、減価償却費として計上されますので、「生産者負担分」欄には「株」と記入して下さい。

書 細 明 上 売 成 育

育成馬名	サラ		ア		サ		ア		サ		ア		サ		ア		
	アラ	区分	サ	ア	サ	ア	サ	ア	サ	ア	サ	ア	サ	ア	サ	ア	
自己、仔分馬区分	自・仔分		自・仔分		自・仔分		自・仔分		自・仔分		自・仔分		自・仔分		自・仔分		
牝	区分	売却馬年齢	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	牝	
	母馬名	名	ゲーム														
血統	父馬名	名	ヒンダスター														
	軽種馬保険	共済組合名	名	〇〇共済組合	〇〇海上火災	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
保険	評価額	千円	9,000	千円	10,000	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
売上の明細(仔分)	住所	東京都千代田区	霞が関3-1-1														
	氏名	名	大蔵主税														
	厩舎名	名	京都国税太郎														
	売上年月日	〇.6.3															
	売上金額	千円	10,000,000	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
	収入区分	馬主(仔分)	5,000,000	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
		生産者	5,000,000	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
	入金方法	入金内訳現金、銀行送金等の区分	6.3	手付金	300万円												
			8.6	振込入金	300万円												
			10.29	振込入金	300万円												
		11.4	現金入金	300万円													
馬主(仔分)	住所	札幌市中央区	大通西10丁目														
	氏名	名	北海太郎														
	住所	名	京都競馬場														
	氏名	名	近畿一郎														
支払手数料	支払金額	千円	500,000	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
	生産者	()	()	円	()	()	円	()	()	円	()	()	円	()	()	円	
	馬主(仔分)	()	()	円	()	()	円	()	()	円	()	()	円	()	()	円	

(注)「売却馬の種付料」欄は、種付料の負担者を生産者、馬主に区分して記載してください。また、同欄の()にはシンジケート名を記載してください。

育成馬明細書

育成馬名	サマ アラ 牝・牝	生年月日	父馬名	母馬名	期首			期末				
					種付料 円	飼育費 円	合計 円	種付料 円	飼育費 円	合計 円		
胎												
児												
0												
歳												
1												
歳												
合 計												

(記載要領) 1 この表により2ページ「B農産物以外の棚卸高の内訳」が作成されます。
 2 自己所有のシンジケート株で種付し、受胎したものは、その償却額を種付料の欄に計上してください。

IV. 令和4年度軽種馬経営高度化指導研修事業営農指導検討委員

令和5年3月1日現在
(五十音順、敬称略)

委員名	所属
朝井 洋	JRA ファシリテーズ株式会社 顧問
小糸 健太郎	酪農学園大学農食環境学群循環農学類 教授
原田 要	総括畜産コンサルタント

